

ジェンダー格差

実証経済学の最新の知見

牧野百恵

日本貿易振興機構アジア経済研究所
momoe_makino@ide.go.jp

November 15, 2024

- ① イントロダクション
- ② 因果推論
- ③ 社会規範と労働市場における男女格差に関する実証研究の例
- ④ 2023 年ノーベル経済学賞クラウディア・ゴールドディンの研究
- ⑤ おわりに

ジェンダーに関する思い込み

- **思い込み**の例
 - ☞ 男性が家族を養うべき
 - ☞ 育児は母親がすべきなど個人の信念
- 個人の思い込みが社会的ルールとなれば**社会規範**
- 思い込みに関する調査 ▶ fig1
- **思い込み**の測り方
 - ☞ 回答者に直接聞く．ただし「**社会的望ましさのバイアス**」
 - ☞ 無意識の思い込みを測る．**IAT テスト**, **List experiment**

女性を外で働くべきでない？

- 南アジア・中東北アフリカ諸国の女性の労働参加率はU字の底 ▶ fig2
- 社会規範「**女性を外で働くべきでない**」が要因として注目を浴びつつある
- 例：インドで女性の労働参加を妨げる大きな要因¹
- 地域特有でもない
 - ☞ 例 1: アメリカでも、1920 年代ごろまでは通説²
 - ☞ 例 2: 規範が弱い地域 (例：北欧諸国) では、**教育水準の高い女性ほど結婚し出産**³
- 女性の社会進出が**少子化**を止めるかもしれない
 - ☞ **女性の社会進出が遅れている国でより深刻** ▶ fig3

ミクロ経済学実証研究とエビデンス

- エビデンス (根拠) とは？

- ☞ 統計学を使って**因果関係**を厳密に示した研究結果
- ☞ **相関関係**との違いに注意!
- ☞ 逆の因果関係, 第三の本当の要因

- **因果推論**とは？

- ☞ **反実仮想**

因果推論の方法

- ランダム化比較試験 (RCT: Randomized Controlled Trial)

📖 バナジー& デュフロ著『貧乏人の経済学』(みすず書房

2012 年)

📖 被験者を **処置群**, **対照群** にランダムに分ける

⇒ **処置群** のみに介入 ▶ fig4

- 自然実験 ▶ fig5

因果推論にこだわるわけ

- エビデンスに基づく政策立案 (EBPM: Evidence Based Policy Making)
 - 👉 思い付き, 「○○べき」といった主義・信条はさておき
 - 👉 本当の問題解決のためにはどうしたらよいのか, 科学的知見を提供
- 根拠に乏しい解釈でなく
 - 👉 ジェンダー平等について理解を深めることができる
- 「途上国研究の最先端」コラム [▶ fig6](#)
 - 👉 さらに一般向けに『**ジェンダー格差**』(2023 年, 中公新書)

男性は間違った認識にもとづいて妻を働かせない⁴

● 背景

- ☞ サウジアラビア女性の労働参加率は 15%
 - ☞ 本研究データで、既婚女性のうち外で働く率はわずか 4%
 - ☞ 妻が外で働くことの決定権は夫に
 - ☞ 女性が外で働くことに賛成の男性は 8~9 割
- 仮説: 多くの男性は**個人的には妻が外で働くことに賛成**が、
周りの仲間たちは反対しているだろうと**間違って認識**.
⇒ 自分も妻を外で働かせない
 - 間違った認識 (= **多元的無知**) の確認: 4 分の 3 の男性が正しい数値 (=87%) を過小評価
 - ☞ **協調の失敗**

間違った認識にもとづいて妻を働かせない(つづき)

● RCT

- ① 35 歳までの既婚男性 500 人. 30 人ずつのグループセッションに招待. 質問への回答は他人には分からず

☞ 女性が外で働くことに対して賛成か

☞ 仲間の男性のうち、何人が賛成と答えたと思うか

- ② 処置群に、賛成と答えた男性の割合 (正しい数値 (=87%)) を教える

☞ 認識の誤りを正すチャンス ▶ fig4

- ③ 参加男性がいずれかを選ぶ

(i) 5 ドルのアマゾンギフトカード

(ii) 実在の会社のオンライン求人情報サービスに妻を登録

- 結果: (ii) を選んだ処置群の男性は 32%. 対照群の男性 23%.
- 結論: 社会規範の影響はちょっとした情報で変わりうる

女の子は数学が苦手？⁵

▶ fig7

- 背景: イタリアの中学校
 - ⇒ 8年生(中学校最終学年)で国語と数学のテスト
 - ⇒ 修了後は, 学問校か, 技術専門校か, 職業訓練校か, 進路を選択
 - ⇒ 教師の薦めに強制力なし
 - ⇒ 進路に高校側からのセレクションなし. 生徒と家族の選択による.
- 自然実験: 生徒の数学担任はランダムに決まる
- 結果: 数学担任教師に女子は数学が苦手だという思い込みが強いと, 女子の数学の成績↓, 学問校(=よい進路)選択↓
- インプリケーション: 社会や文化によってかたちづけられた思い込みが所得格差を生み出しうる

制度が整えば解決するわけではない⁶

- 背景: アメリカの大学のテニュア (終身雇用保障) 制度の時間制限
- 自然実験: 研究者に子どもが生まれたら, 男女を問わず, テニュアの時効を伸ばす
 - ☞ 実質的な育児休業制度導入
- 結果: 制度を利用した男性研究者のキャリアに有利に
- 理由: 育児休暇をとった女性研究者は, 本当に育児に専念. 男性研究者は, 実際は育児を行う代わりに研究に専念
- インプリケーション: 法や企業内の制度の改正だけでは, 女性にとって改悪となりうる
- 規範「育児は女性がすべき」に働きかける必要あり

ゴールドインの研究

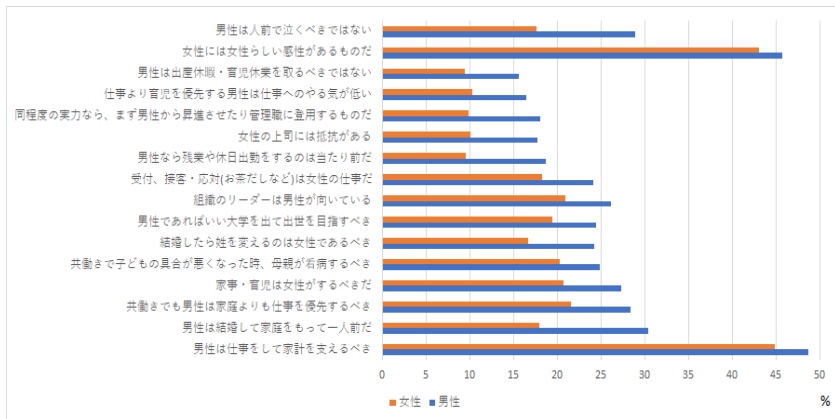
- 受賞理由: **経済史**と**労働経済学**における貢献
- 男女賃金格差の要因に迫る?
 - ☞ **柔軟な働き方**ができるかどうか⁷
- MBAホルダー、弁護士は柔軟な働き方が難しい
 - ☞ **チャイルドペナルティ**あり. 賃金格差が開く.
- 薬剤師は柔軟な働き方が可能
 - ☞ 属人的な要素を排除. 処方箋のシステム化など. 賃金格差なし.
- 日本の雇用慣行にも重要なインプリケーション

おわりに: 日本へのインプリケーション

- 「もはや昭和ではない」(『令和4年版 男女共同参画白書』).
それどころか、すでに平成も終わって令和. 皆の意識が変わる必要あり.
- **社会規範・思い込み**の影響力は大きい
 - ☞ 親や教師の**思い込み**が格差を再生産しかねない
- 「女性が3歳までは子どもの世話をすべき」「男性が家族を養うべき」といった**社会規範**そのものが変化したら、日本の少子化対策には有効かもしれない
- **柔軟な働き方**はもっと追求できるのでは？

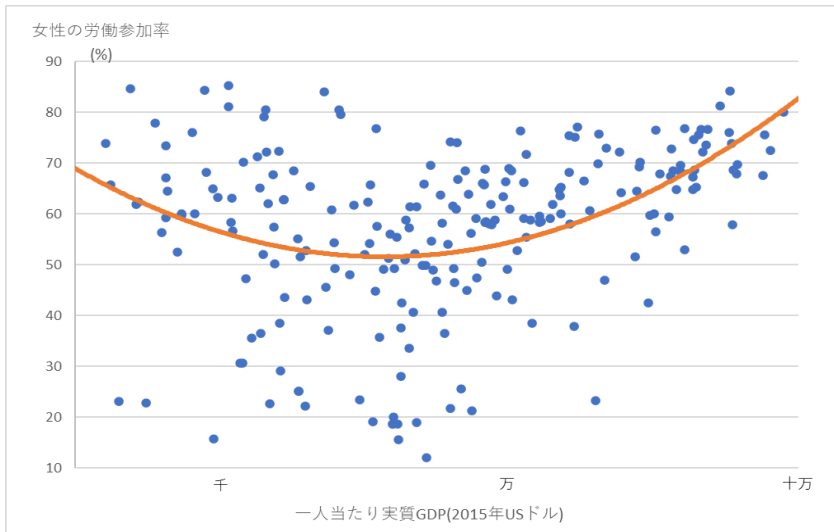
References

- 1 Field, Erica, Rohini Pande, Natalia Rigol, Simone Schaner, and Charity Troyer Moore. 2021. 'On Her Own Account: How Strengthening Women's Financial Control Impacts Labor Supply and Gender Norms', *American Economic Review* 111(7):2342–75.
- 2 Goldin, Claudia. 2006. 'The Quiet Revolution that Transformed Women's Employment, Education, and Family', *American Economic Review* 96(2):1–21.
- 3 Bertrand, Marianne, Patricia Cortes, Claudia Olivetti, and Jessica Pan. 2021. 'Social Norms, Labour Market Opportunities, and the Marriage Gap Between Skilled and Unskilled Women', *Review of Economic Studies* 88(4):1936–78.
- 4 Bursztyn, Leonardo, Alessandra Gonzalez, and David Yanagizawa-Drott. 2020. 'Misperceived Social Norms: Women Working Outside the Home in Saudi Arabia', *American Economic Review* 110(10):2997–3029.
- 5 Carlana, Michela. 2019. 'Implicit Stereotypes: Evidence from Teachers' Gender Bias.' *Quarterly Journal of Economics* 134(3):1163–1224.
- 6 Antecol, Heather, Kelly Bedard, and Jenna Stearns. 2018. 'Equal but Inequitable: Who Benefits from Gender-Neutral Tenure Clock Stopping Policies?', *American Economic Review* 108(9): 2420–41.
- 7 Goldin, Claudia. 2014. 'A Grand Gender Convergence: Its Last Chapter', *American Economic Review* 104(4):1091–1119.



出所: 内閣府男女共同参画局「令和4年度 性別による無意識の思い込み (アンコンシャス・バイアス) に関する調査研究」
 (https://www.gender.go.jp/research/kenkyu/seibetsu_r04.html) より牧野作成

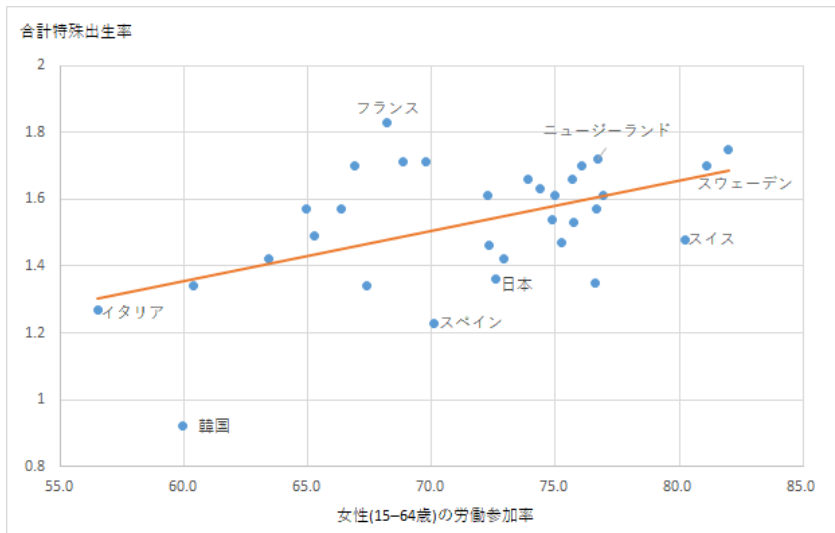
複数国間データでみたときの経済成長と女性の労働参加との関係



出所: World Development Indicator(<https://data.worldbank.org/>) より牧野作成

▶ go back

出生率と女性の労働参加率の関係

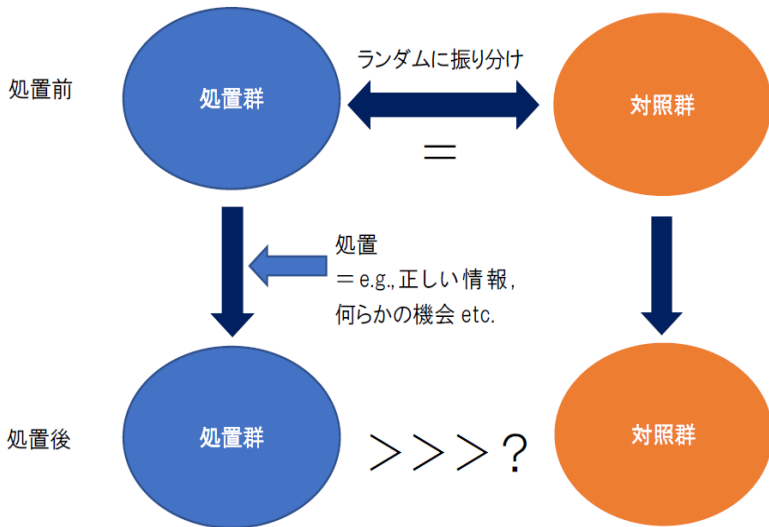


出所: OECD 統計 (<https://stats.oecd.org/>) をもとに牧野作成

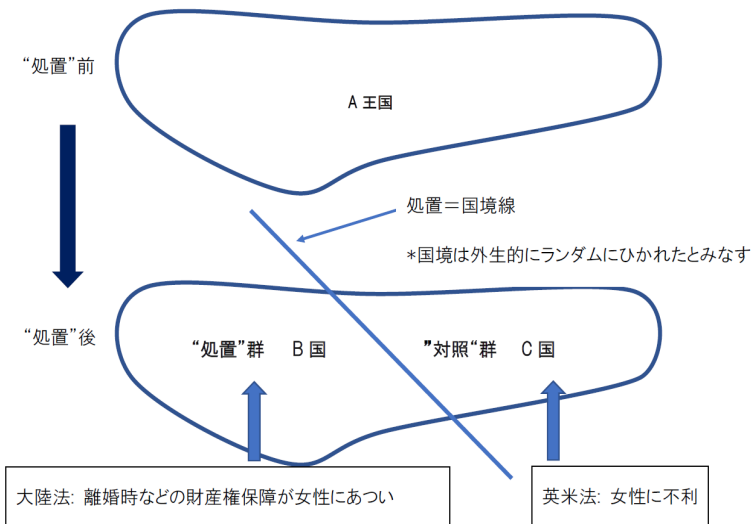
▶ go back1

▶ go back2

RCT のアイデア



実際に Anderson (2018)が使ったアイデア



go back

Mail - Momoe_Makino - Outlook

Inbox (45) - monocena@gmail...

買付国 海外で働くことに賛成だ...

ide.go.jp/japanese/IDEsquare/Column/ISQ000002/ISQ000002_051.html

Mail - Momoe_Makino... | メインポータル - 中央... | PassLogic Login | Google Scholar | COMFAM Web Ser... | WEB印刷 | study | proposal | proofread | proposal | data | gender | covid | Your Projects - Over... | Table Convert Online... | Library | ScholarOne Manus...

IDE SQUARE

+ 特集

+ 論文

+ 世界を見る時

+ 海外研究員レポート

- コラム

スバルディクス！ スポーグから国際政治を見る

途上国研究の最先端

フォーカス・オン・チャイナ

「インタビュー・シリーズ」シリコンバレーのデジタル企業家

期方向という意識

子向け

訪入して！ 知りたかった！ 途上国と社会

文政の不安

経・世界の動向

ベトナムの政治経済

新国際関係のイノベーション

新型コロナウイルスと中国経済の未来：第3回アジアの「未来」たち

新型コロナウイルスと移民

中国経済：ミクロ経済の側面から

訪入して！ 知りたかった！ 途上国とSDGs

「IDEスクエア」について

IDEスクエア @ide_square

「世界を見る時」2022年ガザフスラン報——国際関係の構造から見えてくる「ガザフスラン」の現状と「世界経済」の発展

ide.go.jp/japanese/IDEsq... | ガザフスラン 国際経済

IDEスクエア

コラム

途上国研究の最先端の内容を平易に解説します。

途上国研究の最先端

このページを印刷する

このページを印刷する

このページを印刷する

第51回 妻が外で働くことに賛成だけど、周りは反対だから働かせない

I personally support my wife working outside the home, but I won't let her do so because I believe other husbands are against women working outside the home

PDF版ダウンロードページ : <http://hdl.handle.net/2344/00052820>

【これまでの連載記事一覧】

牧野 百恵
Momoe Makino
2021年9月
(2,405字)

今回紹介する研究

Leonardo Bursztyn, Alessandro L. Gonzalez, David Yanagizawa-Drott. 2020. "Misperceived Social Norms: Women Working Outside the Home in Saudi Arabia," *American Economic Review* 110(10): 2997–3029.

中東および北アフリカ (MENA) 諸国、南アジア諸国では、女性が外で働く割合が歴史的に低い。共通通し

15/9
2022/04/13



中公新書



ジェンダー格差

実証経済学は何を語るか

牧野百恵 著

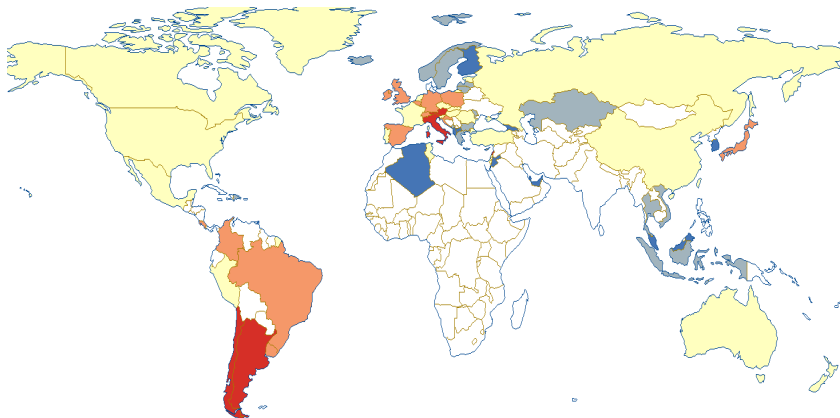
歴史・文化・社会的に形成される男女の差異＝ジェンダー。その差別には近年批判が強く集まる。本書は、実証経済学の成果から就業、教育、歴史、結婚、出産など様々な事柄を取り上げ、格差による影響、解消後の可能性について、国際的視点から描く。議員の女性枠導入＝クォータ制が、質の低下より無能な男性議員排除に繋がる、女性への規範が弱い国ほど高学歴女性が出産するなどエビデンスを提示。旧来の慣習や制度を問う。

書誌データ

初版刊行日	2023/8/21
判型	新書判
ページ数	248ページ
定価	990円（10%税込）

▶ go back

中学生 (15 歳) の数学テストスコア (PISA) の男女格差



出所: 2015 年 PISA データ (<https://www.oecd.org/pisa/>) をもとに牧野作成